観音様の「観」
―絶景展望台からの眺め―

犬山・寂光院山主
松平（まつだいら）實胤（じついん）



◎本物に出会う

寂光院といえば、ご本尊様は「千手観世音菩薩」です。今でこそ、ご縁日には犬山遊園駅より直行バスが運行されますが、私が寂光院に晋山した昭和四十八年当時は犬山遊園駅はもちろんのこと、犬山駅、鵜沼駅から歩くしかありませんでした。たとえ寂光院の山麓に到着されても、先ず百五十段ほどの石段を登って庫裡事務所、更に三百二十段ほど登ってやっと本堂にたどり着くようなことでした。よほどの志、篤い信仰心なくしてはお参りになれなかったことだと思います。しかし、山上ご本堂の千手観音様にお参りされた時の悦びは計り知れません。本当に千手観音様の「千の手」で抱かれるような「平穏な安堵感」、新たに前向きに「生きる力」が蘇ったことと思います。

昨今は便利になり、容易にお参りが出来ますが、ご参詣の皆様方からは、町のお寺様とは違う爽やかな大きなお力、生き抜く勇気が戴けると喜ばれます。尾張最古刹という歴史と伝統、国定公園という自然豊かな環境、「本物に出会う」感慨はひとしおのものがあると思います。

◎観音様はいつも山の上

仏さまのお住まいをお浄土といいます。お浄土といいますと私どもが死後に往生する世界と思われるかもしれませんが、観音様のお住まいは補陀落浄土（ふだらくじょうど）といって私どもの住む「この世、人の世」にあります。そこには補陀落（ふだらく）という山があって、観音様はいつもその山頂においでになります。伝統ある観音霊場に山寺が多いのもその理由です。観音様は正式には「観世音」と申されますが、「世の音を観察する」という意味です。世の音は「この世の人々の苦しみ悩み、喜び悲しみの声」のことですが、観音様は声なき声まで聞きもらすことのないように山の上からしっかりと観察しておいでになるということです。その声を確認して、共に喜び（慈）共に悲しみ（悲）、常に私たちに寄り添って下さる存在で、私たちに前向きに生きる力、生きる勇気を与えて下さるというのです。観音様にお参りすると、いつも心が安らぐのはその慈悲のお心に依るものだと思います。

◎山上本堂の観音様にお参りすると、あなたも観音様になれる？

観音様はまた「観自在」とおっしゃいます。こだわりのない、大らかな目で自在に観ることが出来るという意味です。実は私は生来、こだわりが強く、その上、驕り、自惚れの強い男です。俺が、俺がの「我」がいつも頭をもたげ、人様にご迷惑をかけ、思う通りにならない自分にいら立つことが多い困った性格の持ち主です。そんな私が、曲がりなりにも何とかここまでこられたのも山寺の住職だったからだと思います。

所詮私は「井の中の蛙」、早い話が狭い部屋の中の風景ばかりを眺めてあれこれこだわってきたのでしょう。しかし、毎朝山上の本堂に上がり、お勤めの後、織田信長公が眺めたと伝えられる本堂脇の展望台からの「絶景」を眺めると、こだわりが嘘のように晴れ、なぜか目に入る尾張から美濃にお住いの皆さま方のそれぞれの「平安とご清栄」を祈る大らかな気持ちが自然と湧いてくるのです。内にしか向かない自分勝手な目が、少しでも外に向かい、自然とみんなの幸せを祈ることが出来る大らかな気持ちが戴けます。これこそが観音様のご利益だと思います！